



COLLEGE WOMEN'S  
ASSOCIATION OF JAPAN

# 2022 - 2023 Annual Report

APRIL 2023



CWAJ国際女性デー・トークイベントにて：  
宮地純 カルティエ ジャパン プレジデント&CEO（左）と  
石川凜 2023年度CWAJ Cartier奨学金

速報

## CWAJ Cartier奨学金

CWAJ Cartier奨学金は、ビジネスや起業においてのリーダーシップを高めるために海外の大学院で学位取得を目指す日本女性を対象としています。2023年度CWAJ Cartier奨学金は、石川凜さんに支給されることになりました。同奨学金でオックスフォード大学でMBAを取得する予定です。京都大学農学部で食料・環境経済学を専攻した石川さんは、グローバルな食料問題を解決することを目指し、持続可能な農業を実践する生産者を支援するために、消費者が直接購入する「コミュニティ支援型農業（CSA）」の理念を応用したECプラットフォームの事業開発に取り組んできた、意欲的な女性です。

## CWAJ奨学金制度50周年 - 引き継がれるバトン

1972年、札幌で冬のオリンピックが開催され、沖縄がアメリカから日本に返還された年に、世界で活躍できる日本人女性リーダーの育成を目的に掲げたCWAJ奨学金制度が発足しました。海外に留学する日本人女性を対象とした「CWAJ海外留学大学院女子奨学金」（SA）です。それから9年後の1981年には、同じ目標を胸に海外から日本に留学してきた女性を対象に「CWAJ外国人留学生大学院女子奨学金」（NJG）が開設されました。2022年は、そのSAが創設50周年、NJGが41年目を迎えた記念すべき年でした。SAは通算145名、NJGとそれに類するプログラムでは通算203名の女性が、CWAJ奨学金に支えられて社会進出を果たしたことになります。1978年には、日本で最初の視覚障害学生だけを対象とした奨学金も開始し、現在まで続けています。

### 災害支援も奨学金で

日本は災害の多い国です。CWAJは、大災害にあたって被災した学生が学業をあきらめることのないようにと、奨学金を通して復興を助けてきました。阪神淡路大震災では2年間、東日本大震災では福島看護学生を対象とした特別な奨学金を新設し、さらにパンデミックでは看護学生の対象地域を首都圏へと広げて、合計12年間にわたって支援を続けています。アート対象のプログラムや渡航費援助も加えると、CWAJが勉学を支えた学生は総勢900名近くにのぼります。

### 元奨学生に支えられて

過去の奨学生の多くと何年たっても強いきずなで結ばれているのは、CWAJの誇りです。元奨学生たちはこれまでも寄付などを通してCWAJ奨学金プログラムを力強く支えてきましたが、嬉しいことに、近年は会員になって貢献してくれるケースも増えてきました。多忙な仕事の時間を割いて役員として会の運営に携わる人、委員会のトップとして、あるいは応募書類の翻訳、技術力を生かしてオンライン活動やSNSのサポートをする人など、さまざまな形でCWAJの活動の一翼を担っています。このように社会に出て活躍する元奨学生たちが、今度は仲間として後輩のためにボランティア活動に従事してくれるのは、「常に前へ」というCWAJ精神の反映であり、会の新たな活力となっています。

2023年には、これまでの奨学金に加え、起業家精神を持つ女性を支援するために、カルティエ ジャパンのご寄付により新たに CWAJ Cartier奨学金が設けられ、石川凜さんが選ばれました。CWAJのパイオニア精神をさらに飛躍させる新しい奨学生の今後の活躍が楽しみです。

## ご支援・ご協力のお願い

CWAJは年間を通して、教育・奨学金プログラムへのご寄付、並びに遺贈によるご寄付を受け付けております。皆さまからのご支援によりこれからの若者が大きな夢を叶えることができるのです。

2022年には、かねてより女性のエンパワメントに取り組んできたカルティエ ジャパンより、CWAJの活動に共鳴して多大なご寄付をいただきました。同じくイタリアを代表するファッションブランドのロロ・ピアーナジャパンが、50年にわたり女性のリーダー育成に注力してきたCWAJの理念と日本の現代版画を世界に紹介してきたCWAJ現代版画展に共感して、女性アーティストをご支援くださいました。

CWAJへのご寄付は、国際交流基金の「特定寄付金制度」を活用して、税制上の優遇措置が受けられます。

ご寄付に関する詳細はメールでお問い合わせください。 [donations@cwaj.org](mailto:donations@cwaj.org)



## CWAJ会員として活躍する元SA奨学生より



2013年SA  
成井諒子  
英国留学時の  
教授夫妻と共に

「お世話になったCWAJに何かお返しが出来ればと思っています。奨学生候補者のために英訳のお手伝いをさせていただき大変光栄です。」

2001年SA  
蔭山麻里子

「CWAJよりいただいた多大なるご支援に対しては今日に至るまで心より感謝しております。」



1986年SA  
福原庸子

「ハーバード大学大学院という大きな目標への最初の扉が、CWAJ海外留学大学院女子奨学金でした。そしてこの夢の扉は、更なる高みを目指す道へと導いて下さいました。」

## お知らせ

### 第66回 CWAJ現代版画展 2023年10月18日(水)～22日(日)

ヒルサイドフォーラム  
(代官山 ヒルサイドテラスF棟)

併設展(タイトルは未定)

2023年9月中旬予定

フレデリック・ハリス・ギャラリー  
東京アメリカンクラブ (港区麻布台)

オンラインギャラリー

<https://cwaj-gallery.jp/>



# 2022年度CWAJ奨学金

2021-2022年のCWAJ奨学金は次の10名に支給しました。



## CWAJ 海外留学文化交流大学院女子奨学金 (SA) 1名 支給額 300万円

(この奨学金は国際交流基金の支援を受けています)

平林 藍 (ひらばやし あい)

マギル大学カップル・家族療法修士課程 (カナダ)

## CWAJ 海外留学大学院女子奨学金 (SA) 1名 支給額 300万円

中安 優奈 (なかやす ゆうな)

ジョンズホプキンス大学公衆衛生大学院修士課程 (米国)

## CWAJ 外国人留学生文化交流大学院女子奨学金 (NJG) 1名 支給額 200万円

(この奨学金は国際交流基金の支援を受けています)

ヤシ・イーマン・アハメド ファド アブツルガニ (エジプト・アラブ 共和国)

国際基督教大学 (ICU) アーツ・サイエンス博士後期課程

## CWAJ 外国人留学大学院女子奨学金 (NJG) 1名 支給額 200万円

アフマディ パーニアン (アフガニスタン・イスラム共和国)

宮崎大学農学部獣医学科修士、医学獣医学総合研究科博士課程

## CWAJ 看護学生奨学金 (NS) 6名 支給額 各50万円

高橋 七彩 (たかはし ななさ)

国立看護大学校看護学部 4年

日向 桜 (ひゅうが さくら)

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科社会福祉士課程 3年

及川 美邦 (おいかわ みくに)

日本医療科学大学保健医療学部看護学科4年

上杉 奈美 (うえすぎ なみ)

国立看護大学校看護部 3年

玉岡 遊亀 (たまおか ゆき)

聖路加国際大学看護学部看護学科 3年

根岸 美砂 (ねぎし みさ)

聖路加国際大学看護学部看護学科 3年

## 5月のスカラシップ月例会

新年度の奨学生は、毎年5月の月例会で会員や支援者に紹介されることになっています。2022年は引き続きオンライン開催となりましたが、看護学生奨学金を含む新奨学生がスクリーン上に集まって、CWAJ奨学金制度50年の歴史がビデオで紹介されました。海外会員や元奨学生たちも加わり、節目の年をにぎやかに祝うことができました。



月例会にはCWAJ海外留学大学院女子奨学金(SA)の元奨学生もオンラインで出席しました。

左からSA 1期生の小玉美意子氏(1972)と、今橋真弓(2015) 左近喜音(2019) 川端佐代子(2020) 各氏



# CWAJ

## 奨学金のための

### チャリティーコンサート

2022年3月21日、VVI（視覚障がい者との交流の会）の主催で、世界的ヴァイオリニストの川島成通氏とピアノ伴奏に恵村友美子氏を迎え、

CWAJ奨学金のためのチャリティーコンサートが開催されました。延期が続き、3年越しの企画がようやく実現したものです。久しぶりに生演奏を聴く観客も多く、美しい音色にうっとりとした様子でした。

会場は1921年にフランク・ロイド・ライトの設計で建てられたプレーリー様式の自由学園明日館で、重要文化財にも指定されている美しい建物です。当日は、東京都による座席数の制限で使用できる席はほぼ埋め尽くされたコンサートとなり、視覚障害のある観客も大勢来場しました。JR目白駅から自由学園明日館までの道順は、「認定NPO法人ことばの道案内」がCWAJ会員とともにあらかじめ下見を重ねて作成した、視覚障害者のための音声による道案内アプリ、「ことナビ」に登録してもらうことができました。

8歳のときに薬の副作用で視覚に重い障害を負いながらも、並々ならぬ努力でハンディを克服し、ソリストとして世界中で活躍する川島成通氏の演奏は、会場の雰囲気ともよくマッチして、とても感動的なものでした。会場に鳴り響く拍手に応じてアンコール曲が3曲も披露され、コンサートは大成のうちに終了しました。コンサートの純益は、全額がCWAJ奨学金および教育プログラムに充てられました。

## CWAJとは

f @TheCWAJ

@cwaj\_japan

cwaj.org

一般社団法人CWAJ（カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン）は、「女性が女性を支える」という理念のもと、CWAJ奨学金、CWAJ現代版画展、視覚障害者や児童養護施設の子どものための英語教育など、さまざまなプログラムを通じて教育・文化の推進に努めている非営利ボランティア団体です。約25か国から集まった約400名の女性会員が、無償のボランティアとして幅広い交流の中で友情を深め、楽しみながら教育・文化活動を行っています。1972年に創設されたCWAJ奨学金は、国内外の女子大学院生・視覚障害男女学生などのべ約900名に支給され、各界のリーダーを育ててきました。また、2021年度からはコロナ禍への取り組みとしてCWAJ看護学生奨学金を立ち上げるなど、常に社会のニーズを見据えて活動しています。ボランティア活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語で行います。CWAJ入会についてのお問合せは [membership@cwaj.org](mailto:membership@cwaj.org) へどうぞ。



# 第65回CWAJ現代版画展

宮崎文子  
「さんぽ」  
第65回CWAJ現代版画展委員会賞受賞



## 3年ぶりの会場は大盛況

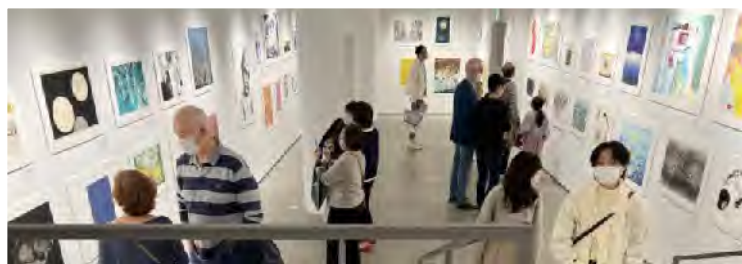
2022年の第65回CWAJ現代版画展は、3年ぶりの待ちに待った代官山での開催となりました。お客様や会員も対面でのにぎわいを楽しみ、オープニングレセプションや期間中に来場した作家との再会を喜ぶなど、華やいだ雰囲気があふれました。引き続き感染の危険もあったため、ボランティアの人数を制限し、レセプションの招待客も減りましたが、5日間を通して多くの観客が訪れました。

オープニングレセプションでは、永年お世話になっている中林忠良氏が乾杯のスピーチで、ボランティアだけで運営されているCWAJ版画展について語り、会員の感動を呼びました。2022年の版画展委員会賞は宮崎文子氏が受賞しました。

第65回展は、作家から提供されたデータを選考委員が画像審査し、その一次審査の結果をもとに実作品を見て二次審査をする形をとりました。これにより過去の選考過程の作業が大幅に軽減され、全体のデジタル化や作業の合理化にもつながりました。最終的に、公募で選ばれた149作品、招待作家による57作品、3年分のYPA受賞者による14作品に、口口・ピアーナ女性アーティスト奨励賞受賞者1作品の計221点を展示販売しました。額装で展示販売を行った新潮文庫表紙作品展も、大きな人気を集めました。

視覚障害者を対象としたプログラム「ハンズ・オン・アート」が会場に戻ってきました。日本点字図書館のご協力により、ブノワ・ヴァライオン氏と磯崎海友氏の作品が立体コピーになりました。視覚障害のある参加者は、ボランティアの説明を受けながら立体コピーを触って鑑賞し、ガイドと版画展会場をまわって楽しみました。

会場では、2021年に「コロナ渦における学生支援プロジェクト」に作家から寄贈された作品と新たな寄贈作品の販売コーナーも設け、さらに多くの資金を集めることができました。また例年行っているガイドツアーに代わるものとして、前年から大好評の版画作品/技法解説のビデオを、会場に設置した大型モニターにループで流しました。



3年目となったオンライン・ギャラリー。会場展示とオンラインの二本立ては、CWAJ版画展史上初めての試みでした。2022年オンライン・ギャラリーの作品画像は、こちらのサイトで2023年10月ごろまでご覧いただけます。(https://cwaj-gallery.jp)

## 特別展示

### 「版画が伝える川端文学のこころ—新潮文庫表紙原画展」

日本初のノーベル文学賞を受賞した川端康成の没後50年となる2022年、新潮文庫の川端作品14点が新装され、そのすべての装幀に、川端文学の世界を体現した過去のCWAJ現代版画展作品が選ばれました。新潮社装幀部では長期にわたり、CWAJ版画展カタログを資料として利用しているそうです。

会場では原画となった作品14点と文庫本を並べて展示販売し、注目を集めました。レセプションには新潮社から4名が出席、三重博一執行役員より日英両語で祝辞をいただきました。



古都



女であること



福島県須賀川市で毎年開催されている小中学生の版画コンクール「田善顕彰版画展」。CWAJでは2013年以来毎年、副賞として田善賞（小中学生各1名）の作品をCWAJ版画展で展示し、受賞者と保護者を招待しています。子どもたちの伸びやかな作品は毎年注目の的です。10月22日、2021年と22年の受賞者4人と保護者が会場を訪れ、熱心に展示を見てまわりました。（写真左から大槻桃子さん、薄井梨咲さん、細田一葉さん、片桐真煌さん）

## 2022年度CWAJヤング・プリントメーカー賞（YPA賞）

賞金50万円



### 長沼 翔

日本大学芸術学部大学院  
(2022年修了)

フォトエンレービングで版画制作をしており、賞金はプレス機等の購入に使います。

「私は、最新作が自分の最高傑作だと誇れるように心がけて銅版画作品を制作しています」

## CWAJ現代版画展口口・ピアーナ女性アーティスト奨励賞

賞金50万円

### 小野寺 唯

東北芸術工科大学大学院  
(2022年修了)

イタリアの最高級ファッションブランドの口口・ピアーナが、若い女性アーティスト支援のため、賞金をご提供くださいました。受賞者は人間性をテーマに水性絵具で木版画を制作する小野寺唯さん。将来を期待される若手作家です。



小野寺唯さんと口口・ピアーナジャパン副社長マルコスポーラ氏

## 視覚障害者との交流会（VVI）

視覚障害者との交流会（VVI）は、視覚障害のある人たちに英語による学びと楽しみの機会を提供しています。

2022年は、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部の生徒向けのプログラムに「英会話パートナー（English Conversation Partners, ECP）」が加わりました。オンライン電話システムを利用して、ボランティアと1対1で会話をすることで、英語で話す自信を養おうというものです。実用英語技能検定（英検）試験準備の模擬面接は、2回実施し、29名の生徒が参加しました。

日本視覚障害者職能開発センターでは、英語力向上のための講座を週2回行っています。2022年は年間を通して、対面で行うことができました。

7月には、シネマ・チュブキ・タバタで「英会話の集い」を開催しました。ここは、イヤホン音声ガイドや字幕付き上映を常時行うユニバーサルシアターです。参加者の方々と英語の映画を日本語音声ガイドつきで鑑賞した後、英語で感想などを語り合い、楽しい時を過ごしました。

VVIニュースレターは電子版と点字版で発行し、VVIとCWAJのイベント情報を181名の視覚障害者に届けました。

## 子供のための英語支援の会（EOC）

CWAJは子どものための英語教育を長きにわたり続けてきました。当初は海外から帰国した日本人児童が、英語力を保つための教室を主催してきましたが、2018年からは「楽しく英語を」の目標のもと、西東京市の養護施設、聖ヨゼフホームに暮らす子どもたちへの英語指導に取り組んでいます。

2022年は2度の施設訪問に加え、子どもたちが英語学習から遠のいてしまわないように、クリスマスや折々の時節には、英語の絵本やゲーム、英語をあしらった小物など、楽しみながら自然に英語に触れられるような品々を贈りました。新しい試みとしては、ボランティアが、絵本をページごとに英語の原文と日本語訳を音読して録音し、それをQRコード化して、絵本の裏表紙に貼付することを始めました。



ホームの先生方は、このQRコードを利用して、子どもたちが絵本のお話を聞きたいときにはいつでも、読み聞かせの時間を持てるようになりました。それでもやはり、一日も早く以前同様に、毎月の訪問を再開することが一番の願いです。



## 外国人留学生との交流会（FSC）

FSCは日本で学ぶ留学生を対象に日本の文化や習慣を理解し、楽しんでいただくための多種多様な活動を行っています。またFSCのボランティアはメンターとして、留学生への個別のサポートも行っています。

2022年は、3月のCWAJ奨学金のためのチャリティーコンサートを皮切りに、4月はガイド付きウォーキング・ツアーで桜田門から金刀比羅宮、愛宕神社、増上寺、そして泉岳寺を訪れました。5月はサントリー美術館の北斎展に、7月恒例の歌舞伎鑑賞会では、総勢44名で国立劇場の歌舞伎鑑賞教室に参加しました。9月はオンライン講座「着物のすべて」を開催。ヨーロッパ在住の元FSC学生たちまで参加して、男女さまざま、色彩豊かな和服について学びました。10月はCWAJ現代版画展の鑑賞と、CWAJの活動の説明を受けた後、会場近隣の旧朝倉家住宅へ足をのびし、素晴らしい建築様式や日本庭園の散策を楽しみました。12月の大宮盆栽美術館と盆栽村訪問では、CWAJ会員や元FSC学生も含めた13名が見事な盆栽を堪能、栽培技術の高さに感銘を受けました。

## 月例会プログラム

CWAJの月例会では、2022年もバラエティー豊かな講師によるプログラムが開催されました。10月と12月を除いては、すべてオンラインで行われました。



1月は、ソーシャルメディアプロジェクトCelebrating Women in Japanの創設者**メアリー・ブロック**氏が、各分野で活躍する日本人女性を紹介しました。



2月の**佐藤若由**氏による、検索履歴を利用してユーザー属性に合わせた広告を選定するSNSの仕組みについての講演は、多くの会員の興味をかきたてました。



3月はバンク・オブ・アメリカ メリリンチ日本証券の**デバリエイ**氏が、2022年後半以後の金融業界の動向を理解するのに絶好のタイミングで、インフレが進む要因を紹介しました。



4月には、彫刻家の**ケイト・トムソン**氏が、白い大理石の作品やスコットランドと日本でのコミュニティ活動について、快活なトークで会員を魅了しました。



6月には、元駐ミャンマー英国大使の**ヴィッキー・ボウマン**氏が、「責任ある企業行動」について講演。その後まもなく軍事政権による同氏の拘束が報じられて心配しましたが、11月下旬には無事解放されたと知り、胸をなでおろしました。



9月には上智大学の**スヴェン・サーラー**教授が、政治目的による操作も含め、歴史認識を形成する要素について興味深い講演を行いました。



10月はCWAJ現代版画展のキックオフとして代官山ヒルサイドテラスで、銅版画作家の**柳澤紀子**氏が生涯を通して取り組んでいるテーマと技法について語る、対面の月例会が開催されました。



11月にはニューヨーク州と山中温泉を行き来する**ハンナ・キルシュナー**氏が、高齢化が進む山村での生活に欠かせない工芸品や文化活動について語り、自身の体験と山中温泉に住む人々について出版した本の一節を紹介しました。



12月には、実に3年ぶりの昼食会が丸の内の日本外国特派員協会で行われ、ジャズシンガーでピアニストの**グレース・マーヤ**氏による素晴らしいパフォーマンスで1年を締めくくりました。

